

学校だより



ひびきあい

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamiterao/>

横浜市立上寺尾小学校

令和8年8月31日

TEL585-2961

子どもたちの声に学ぶ

学校長 吉田 圭一

長かった夏休みも、終わってみればあっという間だったのではないのでしょうか。ご家庭でさまざまな過ごし方をした子どもたちが、元気な声とともに学校に戻ってきました。

休み中は、熊本で地震、千葉で大雨による災害が発生し、復旧が思うように進まないというニュースが連日報じられています。関係のあるご家庭もいらっしゃるかと思いますが、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く平穏な生活が戻ることを願っております。

さて、7月27日に寺尾中学校で開催された「横浜こども会議」に本校児童が参加しました。人権尊重のための取組やいじめ防止に関するテーマについて、寺尾中学校ブロックの児童生徒の代表が集まり、率直な意見や具体的な取組について話し合いました。

本校から参加した6年生のMさんとNさんは、「とても緊張したけれど、中学生がサポートしてくれたおかげで自分の考えを伝えることができた」と振り返っていました。また、代表として参加する責任を感じながらも、他校の児童生徒と真剣に意見を交わすことのよさを実感していたようです。夏の暑さに負けないほど熱い思いを抱いて帰ってきた二人の姿を、とても頼もしく感じました。

話は変わりますが、毎年8月6日には広島市で原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式が行われます。世界各国から多くの来賓が参列し、広島市長や内閣総理大臣などが平和への思いを述べます。その中で、広島市の児童代表2名が述べる「平和への誓い」が大変印象的でしたので紹介します。

「私たちには、広島の子どもとして行動する責任があります。相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めること。平和への思いを、自分なりの方法で表現すること。一人一人の小さな行動が平和への後押しとなります。平和とは誰かから与えられるものではなく、世界中の人々でつくりあげるものです。私たちもその一員として一歩を踏み出します。」

被爆体験を直接聞くことが難しくなっていくこれからの時代だからこそ、あの悲しい出来事を風化させることなく見つめ続けること、そして自分で考え、行動することの重要性を改めて感じます。しかし、それは子どもたちだけに求められるものなのでしょうか。私たち大人にも問われていることではないかと考えさせられました。

現在、世界を見渡すと、国や地域の対立によって平和が脅かされるニュースが後を絶ちません。こうした出来事は歴史の中で幾度となく繰り返されてきました。だからこそ今、子どもたちが訴える「平和への誓い」に耳を傾け、その思いから学ぶことが大切なのではないのでしょうか。

学校では、「子どもたちの声」から学びを広げ、深めること、そして過去から学んだことをこれからの生活や自らの生き方につなげていくことを大切にしていきます。子どもたちが主体的に考え、他者と協働しながらよりよい未来を築いていけるよう、今後も教育活動の充実に努めてまいります。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。